

# 第 1 回香南市産業振興計画策定委員会

## — 議 事 録 (要旨) —

■日時：平成 25 年 9 月 27 日 (金)

午前 9 時半から

■場所：のいちふれあいセンター 2 階会議室

■出席者

○策定委員会委員

受田委員、西村委員、野島委員、丸岡委員、澤田委員、竹内委員、北代委員、北村委員、  
中内委員、松山委員、國沢委員、野中委員

○オブザーバー

清藤市長、近森氏 (県)

○事務局

田内氏、村山氏、浜田氏、益永 (オオバ)、湯浅 (オオバ)、小林 (オオバ)

【次第】

1. 開会 (進行：事務局)

- ・市長あいさつ
- ・委員自己紹介
- ・委員長等の選任 (委員長：受田氏、副委員長：野中副市長)

2. 議事 (進行：受田委員長)

### 議事 (1) 高知県産業振興計画の取り組みについて

■高知県産業振興推進部 地域産業振興監

～第 2 期高知県産業振興計画の概要及び産業振興計画年間スケジュール等についての説明～

■委員長

- ・香南市産業振興計画を考えていく上で、基盤となる県の産業振興計画については、委員の皆様  
様に理解していただく必要があるということで、少し時間をかけて詳しく説明していただ  
いた。
- ・ご質問があれば、ここでいただきたい。

<質疑応答>

■委員

- ・資料 P36 に記載されている物部川流域 23 事業の中で、加工品販売による夜須地域の活性化  
として、やすらぎ市の加工場の建設の話があったが、これは決定しているのか。現状を教え  
て欲しい。

■県

- ・協同組合やすらぎ市の加工場建設だけに取り組んでいる地域アクションプランではないが、  
夜須地域の活性化の中にこのような事業内容があるということ。やすらぎ市から加工場の建  
設をしたいということで補助事業の話があり、今 10 月に開催される審査会に向けて準備中

である。県庁の方で細かい数字のチェック等をしている状況である。

#### ■委員長

- ・高知県産業振興計画は、策定の段階からかなり知事と議論をし、この形になったという思いがある。知事が策定にあたって曲げなかったポリシーは、策定自体に県民を巻き込み県民運動に展開したいということであった。
- ・トップダウンでは県民に浸透しないと。今回の産業振興計画は、県民をあげてつくって県民がそれを動かしていくということ。結果的に策定に関わった人数は、県民3千人が参加したと言われている。3千人以上の方が作り込みに関与したということからすると、相当身近な存在になっていたという経緯がある。
- ・2期にあたって数値目標を定量的に書き込んだことは計画の骨になる部分。県民のコンセンサスのもと、知事の任期である4年を越え、10年後の定量的数値目標を書き込んだのは画期的なことだったと思う。
- ・計画をきちんとパンフレットにまとめていただき、振興監から要約していただいたように、洗練した内容になっているが、計画に込められた思いが随所にあるということを補足しておきたい。
- ・県の計画を越える計画にするのか、県の計画をリードする計画にするのか、あるいは日本の産業振興計画のテンプレートになるようにするのか、皆さんの意見にかかっている。
- ・質問が無ければ5分間休憩、35分より再開。

### 議事(2) 香南市産業振興計画の策定について

#### ■事務局

～香南市産業振興計画の概要及び取り組みの流れ等について説明～

#### ■委員長

- ・資料1～4に基づき、香南市の産業振興計画全体のつくりについて紹介いただいた。
- ・資料がなかったので分かりづらかったかもしれないが、まちづくりランドデザインという計画がもう一方で走りをはじめている。その協議の中身については、新庁舎の建築、また、南海・東南海地震に対応するための高台移転といったところが議論されはじめていて、全体としてランドデザインを構成していくということになる。
- ・清藤市長から補足をお願いしたい。

#### <質疑応答>

#### ■市長

- ・産業振興計画に関する説明を聞き、事業メニューが沢山あると思ったのではないか。産業振興計画、物づくりの地産地消センター、産業振興センターと様々な県の支援策がある。市町村と一緒にやるのが県にも市町村にも一番良いが、存外無いのが現状。財政的に難しかったが、今は県のいろいろな支援策があるため、市町村が振興策を計画し実行しやすいチャンス時期である。
- ・いただく要望陳情は全て別個の状況。香南市としてきちんとした計画が必要。農業振興でも国にお願いすること、県と一緒にやること、JAを中心として団体がすること、農家の皆さんがすること、香南市がすること、がある。計画を立てることにより分担が明確になり、市

全体も市職員もわかりやすくなる。

- ・裾野が広いイコール市町村が独自の振興計画を作ることにより、県にも市町村にもプラスに働くというねらいもある。県には、この計画づくりの段階からかなり支援をしてもらっている。
- ・こういったことを考慮して、今後、具体的に考えていただきたいと思う。

■委員長

- ・市長から補足していただいた。質問をいただきお答えしたい。

■委員

- ・市民意向調査に関してアンケート回収率が28.9%と極めて低いと思うが、原因は何であると考えているのか、または、この数字が当たり前の数字と考えているのか教えて欲しい。回収率をみると、市民が関心を持っていない感じがする。

■事務局

- ・28.9%という数字は、香南市における過去の郵送回収のアンケート結果との比較でいうと比較的平均的な数字であるといえる。
- ・男女共同参画に関するアンケートでは、回収締切時に未回収の所に再度お願い文書を出し、50%位まで上げた。
- ・アンケートは、今後3年間毎年続ける予定なので、再度文書にてお願いするなどにより、回収率を出来るだけ上げていきたい。

■委員長

- ・産業振興計画の策定にあたり、このアンケートをどう活用していくか、どのような位置づけとするかは重要。アンケートの意向を積み上げていくという方法は、住民の総意を把握する方法としては、スムーズな方法である。
- ・県民運動に展開する時に、検討委員会から叩き台を出して、パブリックコメントを住民からもらう方法も出て来ると思う。
- ・住民とのキャッチボールを行うというツールのな位置づけとしても、このアンケートはあると思う。

■委員

- ・農業分野から住宅分野まで、7つの目標がある。一般的には観光分野で終わるが、そこに新たに住宅分野を加えたのは、高台移転や1ターンを行いたいのが住宅環境が整っていないので断念する人がいる、ということへの対応などを含めているのか。

■委員長

- ・県の産業成長戦略の分野とは住宅分野の所が違う。見事な指摘。

■事務局

- ・ご指摘の通りである。住宅分野に関しては、今後の施策として、高台移転等も含む意味で加えた。
- ・その他の違いは、県は、商工と工業が一緒になっているところである。
- ・本日の会議において、県と分野を合わせた方が良いとの意見があればそのようにしたい。

■委員長

- ・これから議論していかなくてはならない一番重要な所を、指摘いただいた。
- ・住宅分野の新しい柱立てをした理由は、ご指摘の通り。この柱立ては、まだ決まったわけで

はない。分野の柱立てについても皆さんの意見を賜りたい。

- ・県は、商工労働部があり、商業分野と工業分野を所掌している。農業振興部、林業振興環境部、水産振興部、商工労働部、観光振興部で県の部に対応している。こちらは香南市の課の作りと、どう連動させるかということと考えるべき項目。といった、その3つを組み合わせ、柱立てを決めていくことになる。

#### ■委員

- ・冒頭に「香南市産業振興計画とは」という記述があるが、この計画が何年後を目指すのかという記載が無い。「夢のある産業を目指す」とだけ書いてある。
- ・策定する計画が何年後を目指すのかということがないと、夢の計画書をつくるのかということになる。
- ・県の計画は平成 33 年度を目指している。県と並行しながら、県はできているが、市はどうしてできていないかとか、常に進行を管理しながら進めるのであれば、一般的な 10 年ということではなく平成 33 年度となる 8 年後を目指すべきだと思う。
- ・人口の目標は、維持になっているが、維持も大変。常に 2 年位で見直していかないと、夢を書いただけの資料になる。

#### ■委員長

- ・この点については、多くの皆さんが気付き、丸岡委員に代表で指摘いただいたということになると思う。実は、事前の打ち合わせの際、期間については話をしていたところである。

#### ■事務局

- ・年度を県と合わせていきたいと考えている。県の数値目標は4年後と 10 年後なので、市としては、2 年後と 8 年後という形になる。
- ・毎年度ローリングをかけ、評価をして見直していきたいと考えている。

#### ■委員長

- ・2年毎に、フォローアップしながらローリングさせて、定量的、定性的目標をクリアできているか、きちんと評価を行う。そのことが、この計画が夢物語ではなく、現実的に計画が走っているかの精査になる。
- ・夢物語を描いて、非現実的な話をし過ぎると実質的にできない。でも、夢が無ければ、誰も走らない。どう両立させるかということで、4 年後は非常に現実的、10 年後は少し飛躍はあるが、夢も含めての柱立てになっている。
- ・住民の皆さんが中心になり、将来の子どもたちに香南市の夢を描いて託してもらわないといけけない。合わせて現実的に夢を築いていく基盤として、近未来的に維持しておかないといけけない部分は担保しておく、このような作りになると思う。市長の思いもある。
- ・具体的な 4 年後の目標が、「人口流出を防ぐ」だけでいいのか。人を増やす必要があるのか、あるいは少し減ってもいいのか、議論が必要だと思う。
- ・人口は一つの指標になるが、目的化は意味が無いかもしれない。多ければ良いという考え方が幸せなのか、住民に議論してほしいポイントである。

#### ■委員

- ・県のアクションプランには、具体的な人材育成が載っている。県を越えて香南市が取り組むならば、8 年後 10 年後のための人材育成をやってほしいが、この中に載っていない。
- ・何かをするために育てるのではなく。オランダの話があるが、農業をしている人もわかって

いないと思う。ヨーロッパで物を見て来るとか、若者が世界に行き、世界観から香南市で何かをしたいという人間を育ててほしい。人材育成にお金を使ってほしい。昔、高知県青年の船で莫大なお金で若い人を海外へ行かせた。今、その人たちがリーダーシップを取り、県の大きな財産になっている。県が取り組んでいないのなら、市が人材育成のために経験をさせてほしい。

#### ■委員長

- ・人が宝であるということは絶対的。県の産業振興計画も徐々に人の育成に力点が移り始め、産業人材から若者というところにシフトしてきているということを感じている。教育は国家百年の大計と言うが、百年かかり成立するような国家事業を県が取り組み始めている。市も独自性を持ち引っ張って行くのは素晴らしいこと。
- ・私も土佐FBCという人材育成をはじめた。市長も関心を持たれ、市も支えていくところから始まっており、市の職員の方も派遣している。今の意見は、膨らませていきたい。

#### ■事務局

- ・資料の説明の訂正をお願いしたい。
- ・資料P4の人口、世帯数についてだが、グラフの数字は国勢調査の数字であり、資料下の数字は住民基本台帳の数字である。国勢調査の数字は、統計の時期の関係で、住民基本台帳の数字より千人ほど少なくなる。人口は右肩上がりと言ったが、国勢調査では横ばいである。
- ・上段と下段の数字では、基の調査が違うので見方に注意していただきたい。

#### ■県

- ・市の振興計画、産業振興計画、ランドデザイン、3つの計画の関連性と役割分担を説明していただきたい。

#### ■副委員長

- ・現在、各種重要施策の検討を同時に進めている。
- ・香南市の振興計画は、ソフトとハード、公共公益福祉型の行政事業と、まちづくりものづくりの分野の両輪で成り立つと考えている。このハードが、産業振興計画やまちづくりランドデザインであると考えている。
- ・香南市の振興計画を上位計画として、まちづくり分野を具体化するのがランドデザインであり、そのランドデザインとともに産業部分を受け持つのが、香南市産業振興計画と位置付けている。さらにこの下位には、実施計画事業として、例えば高台移転や庁舎建設の計画、農業や工業の振興計画が出て来ると思う。一連のものを目指して進めたい。

#### ■県

- ・振興計画の分野別成長戦略、住宅部分とランドデザインの高台移転等の住宅などのところは重複したり、分野を分けたりしながら、平行して取り組んでいくイメージなのか。

#### ■副委員長

- ・議論していただきたい質問をいただいた。
- ・高知県全体の人口が減少している中、香南市が人口維持を続けている大きな理由は、多くの人が香南市に新しく住宅を求めて来ているからである。住みやすい場所、良い場所、高知市に通勤しやすい場所として増え、産業振興にも役立っている。ベッドタウンと言ったが、住みやすい場所として人を増やしていくのも一つの施策となる。
- ・ベッドタウン化を目指す前に、住宅地や福祉のサービス、教育施設や病院施設を充実させな

ければならないがどこですのかということになると、土地、施設、道路、上下水道、自然環境の保全が必要。産業振興をするためには、香南市全体のまちづくり・基盤づくりも同時並行に進めなければいけないと考えている。

- ・委員会の課題になると思うが、単に住宅地として人口さえ増えればいいのではなく、香南市として自立した産業を作っていかなければならないとなると、農林漁業、商工水産も含め、新しい産業軸、産業の土地利用、産業に相応しい住宅地、まちづくり全体の骨格構造を形成することにもなってくる。
- ・香南市の都市としての骨格構造を作ることと、目指す産業振興とは両輪、一体のものと考えられる。そのため、受田先生に無理をきいていただき、まちづくりランドデザインと産業振興計画の両委員長を務めてもらい、一つの計画として進めていくこととしている。
- ・ランドデザインには、産業振興計画の考え方を提示している。今後は、この委員会にランドデザインの考え方を取り入れ、まちづくりの議論も同時に行う機会を作ってほしい。

#### ■委員長

- ・少し難しい。完全に重なっているという見方もできるし、産業振興計画には数値目標があるので、産業振興計画の各分野の計画の位置付けにもなっている。
- ・今日の質問意見に基づき、住宅分野として立てておくのか、ランドデザインとどう住み分けるか、ランドデザインの検討委員会を含め議論したい。どちらかに整理した方が良いとなれば、判断が必要になる。

#### ■県

- ・ランドデザイン委員会での議論は、次の委員会に概略でいいので、説明いただきたい。

#### ■委員長

- ・1回目ランドデザインの委員会が先月開催されたが、進め方についてもいろいろな意見が出て整理している段階。今後はこの委員会でも、情報を共有するように努めたい。
- ・両委員長を仰せつかり混乱している。産業振興計画の委員会がようやく始まったところであり、今後整理をしていきたいと思う。

#### ■委員

- ・香南市の人口が増えているのは、住宅も魅力があるかもしれないが、これには載っていない、自衛隊の人数増加が影響していると思う。自衛隊が増えたことよっての人口維持であり、実態としては減っているということ、市がわかって説明して計画を練っていかないと危ないと思う。
- ・この委員会では、もっと見つめ直して計画を練らないといけない。
- ・実態が分かる資料で検討していくべきと思う。

#### ■委員長

- ・おっしゃる通りだと思う。資料3頁に叩き台が記載されているが、持続可能な自治体として地域として、どのような成功イメージ、将来ビジョンを描くか、ということに尽きるのではないと思う。
- ・先ほどの住民アンケートでは、企業誘致を期待する声があるが、一方で三重県の亀岡シャープの例のように、誘致した企業はやがて去って行く可能性もある。
- ・地域に根差した持続可能性をいかに担保していくかという議論を突き詰めると人材育成ということになる。

- ・住民の皆様が、如何に考えていくかが重要。現状分析をもっと悉皆的にやっていくことを是非事務局にお願いしたい。
- ・終わりの時間が近付いたので整理する。
- ・この計画の上位には、香南市の振興計画があり、さらにランドデザインの検討委員会も今開催されている。産業振興計画の位置付けを、次回の委員会で整理し可視化した資料を出したい。
- ・香南市産業振興計画の期間については、高知県産業振興計画が、平成 24 年度から第 2 期がスタートして、その時点から 4 年 10 年後の計画が立てられている。そのことを根幹におき、進捗度・位置関係を明確にするために、香南市の振興計画は県の 4 年後に照準合わせた 2 年後、県の 10 年後に照準合わせた 8 年後を、具体の期間として設定させていただく。
- ・今後は、資料 3 頁の構成のイメージづくりを今から具体的にしていくことになる。今の段階では、農・林・水・商業・工業・観光・住宅と分野を 7 つに切り刻み部会を開催する考え方となっている。
- ・第 1 回委員会終了後、部会のスケジュールを調整することになる。皆さんは、基本的には何処かの部会に参加することになると思う。同じ組織内で部会に出席する人がいるはずなので、その方と情報を共有してもらい、部会では、例えば農業分野では目標をどう設定していくかという議論から入ると思う。これを積み上げていくとボトムアップで真ん中の帯が見えてくる。10 年後の成功イメージは、議論しながら作っていく。ランドデザイン策定委員会でも同時に議論しているので、突き合わせていくことで数値目標等を考えてもらうことになる。
- ・2 年後は、県のアクションプランが動いているので、これが大きな指針になるが、香南市ならではの様々な施策を考えてもらう必要がある。2 年後から 8 年後は、県も数値を達成する具体案はまだ無い。どう埋め合わせるかについては、地域の英知が期待されているし、担わなければならない。これが積みあがった時に県の産業振興計画も目標通り達成ができるのだと思う。
- ・このようなことを理解の上、各分野で議論を進めてほしい。
- ・資料の 1 頁の左下に策定の進め方が記載されており、第 2 回目、第 3 回目委員会で議論することが示されている。第 2 回目の 11 月下旬は、産業振興の理念と目標を議論し、少しずつ根幹に入っていくことになる。分野別成長戦略の概要が、部会から少しずつ上って来る。地域活性化策は、各地域の皆さんが中心になり議論していくことになる。
- ・議論の中身は、産業の部会と重なってかまわない。分野に対する基本的考え方を分野別の部会で議論し、それに基づき個別に現場で何をやっていくか、各地区でどうしていこうかを縦系横系の関係で織り成してもらえれば、スムーズにいく。このようなところを少し議論してもらい、地域活性化策の概要として、第 2 回委員会で協議していただきたい。
- ・7 分野が変わっている可能性もある。柔軟な対応が必要なので、理解の上、協議をお願いしたい。
- ・アンケートは本日全てを紹介してはいないので、後日整理したものを披露したい。

## 議事 (3) その他

### ■委員長

- ・1 回目はここまでとさせていただく。第 2 回委員会までに、協議いただく内容を少し具体的

に紹介する。

- 補足があればお願いしたい。

■事務局

- スケジュールについてだが、次回委員会は、開催が少し遅れる可能性があることをご了承いただきたい。
- 今回の委員会につきましては、市民の皆様には PR していないが、今後、委員会は公開にしていきたい。
- 委員会で話われた内容等の議事概要等は、市の広報誌、HP に掲載を予定したいと考えているため、了承願いたい。

以上